

広尾学園中学校高等学校

帰国生には最高の環境と条件（6）

国際担当 小山 和智

2007年4月、順心女子学園は共学校になって、校名も「広尾学園」に変わります。しかし、この学園の帰国生に対する受け入れ体制や個別指導の素晴らしさが男子にも開放されるわけで、ますます目が離せない学校となります。

● 英語の力も“自然な形で”伸ばす

広尾学園が「他校と全く異なる」と評価されている点の一つは、帰国生を特別扱いせず、国内育ちの生徒に引けを取らない実力をつけさせてしまう点です。そのことは、このシリーズでもご紹介してきました。一人ひとりの課題に対してきめ細かく指導していくシステムさえあれば、帰国生や外国人であっても、のびのびと実力をつけていきます。学校全体が家庭的な雰囲気、帰国生が自然に“居場所”を見つけやすい雰囲気になっているのです。

英語圏の現地校やインター校で学んで帰国した生徒は、国内育ちの生徒と同じ英語の授業を受けるわけにはいきませんから、取り出し指導になります。ネイティブの教師が独自の教材を用いて英語力や思考力の保持伸張を行い、年齢相当レベルで「自分で考え自分の意見をもつ態度」を形成できるよう指導します。当然、数名の帰国生だけで授業を受けることにはなりますが、英語で思いきり話せる機会でもあり、ストレス解消と自信回復によって、他の教科の学習にもよい効果が現れています。

中学校が20人学級、高校が30人学級という恵まれた条件もあるのですが、国内育ちの生徒と一緒に“自然に”学力を伸ばしていける喜びが、何よりの充実感や幸福感になっています。学園を訪れる人が、一様に安心した表情をされるのも、この“空気”でしょう。

● 入学前に解っていてほしいこと

広尾学園では、“自律”と“共生”が学校運営の基礎にあること、とくに、生徒の本分は“学ぶこと”であることをキチンと理解しておいてください。

例えば、日本の学校では携帯電話を禁止しているのが普通ですが、広尾学園は認めています。「どんな道具にも、本来の目的と適切な使い方がある」と判断できることが大切だ

と考えるからです。また、「自然で健康であることが美しさの基本」という観点から、茶髪やピアス、化粧などは禁止しています。制服もキチンと着こなすよう指導します。自分の行動や服装が、TPO（時と場所と機会）に適しているかを判断することも大事なのです。

他方、いろいろな観点から複眼的にものごと

を考えられること、論理的に考えを進められること、それを相手に分かりやすく表現できることを大事にしています。入学試験の小論文や面接でも、その観点で評価がなされます。学園生活を通して、いろいろな価値観や経験を持つ人とコミュニケーションがとれ、一緒にチームを作って仕事をこなす結果が出せる人材に育っていく……広尾学園はそれを実践している学園なのです。



共学校に変わります
順心女子学園から、広尾学園へ